

立石小中学校 小中一貫教育推進だより

令和4年12月号
立石小中一貫教育推進準備委員会

立石小学校、中学校は、小郡市教育委員会の指定を受けて、令和6年4月から小中一貫教育校としての教育を行うことになりました。

小中一貫教育は、義務教育9年間である小学校、中学校において、指導の仕方や学習する内容につながり（一貫性）をもたせて行う特色ある教育のことをいいます。

現在、推進準備委員会が発足し、先進校の視察に行ったり、小中共通の教育目標や実施までの準備について話し合ったりしています。今年度の準備委員会のメンバーは次の方々です。



〈令和4年度立石小中一貫教育推進準備委員会〉

委員長	重松 正喜	(立石小・中 学校運営協議会会長)	副委員長	山村 栄揮	(立石中学校校長)
委員	重松 弘喜	(区長会会長)	委員	平島加代子	(主任児童委員)
委員	木部 昭生	(くろつち会館館長)	委員	肥山 明夫	(地域学校協働活動推進員)
委員	井手上雄二	(立石小PTA 会長)	委員	小宮 瑞江	(立石中PTA 会長)
委員	小屋松和行	(立石小学校校長)	委員	神代 美紀	(学校教育課長)
委員	河村 昌宏	(立石小学校教頭)	委員	青木 智宏	(学校教育係長)
委員	江口 奈実	(立石小学校主幹教諭)	委員	末崎 謙次	(教育委員会指導主事)
委員	山口 浩一	(立石中学校教頭)	委員	春山 リマ	(教育委員会指導主事)
委員	高山 晃	(立石中学校主幹教諭)			

宗像市 日の里西小・日の里東小・日の里中学校への視察

現在、福岡県内には、既に小中一貫教育を行っている学校がいくつかあり、それぞれが児童・生徒、学校、地域に応じた特色ある小中一貫教育を行っています。立石小・中学校も小中一貫教育を始めにあたって、どんな一貫教育をするのか、具体的にどんな準備が必要なのかを明らかにするために、小郡市教育委員会と準備委員会との合同で先進校視察を行いました。視察先は、宗像市の日の里西小・日の里東小・日の里中学校で、この3校は、「日の里学園」という総称で呼ばれ、平成18年から小中一貫教育を行っています。この3校は隣接型の小中一貫校で、地域活動の活性化をめざした特色ある一貫教育が行われていました。



そもそも小中一貫教育とは

小中一貫教育は、小学校、中学校において、指導の仕方や学習する内容につながり（一貫性）をもたせて行う特色ある教育のことをいいます。具体的には、小学校と中学校とで同じ教育目標のもと、目指す児童生徒像を共有し、9年間のつながりがあるカリキュラム（指導計画）をつくったり、指導の仕方について、小学校のよさ、中学校のよさを相互に取り入れたりしていきます。文部科学省の統計では、現在、全国には小中一貫教育を取り入れている学校が小学校 745 校、中学校 430 校程度あり、これらの学校の分析では、次のような効果が期待できるそうです。

- ① 中学校入学時に、小、中学校の違いに戸惑ったり、自分に自信を無くしたりする子どものストレスを減らすことができる。
- ② 上級生が下級生の手本となろうとする意識が高まり、自己肯定感が高くなる。
- ③ つながりがあるカリキュラムと指導方法により、学習意欲の向上、授業の理解度の向上が期待できる。

小中一貫校は、制度、施設の違いから次の種類があります。

〈制度面〉	ア 小中一貫型小学校中学校（小、中のそれぞれの組織がある） イ 義務教育学校（1つの組織である）
〈施設面〉	A 分離型（小中の敷地が離れている） B 隣接型（小中の敷地が隣接している） C 一体型（小中が同じ敷地内で、校舎が一体化している）

立石小・中学校が始めようとしている小中一貫教育は、上表の「ア」と「B」にあてはまり、校舎や組織（職員体制）については現在のものと変わらないものです。

小中合同授業研修

立石小、中学校では、以前から小学校の指導のよさ、中学校の指導のよさを相互に取り入れて分かりやすい授業を行うために、小中学校合同で〈授業づくり〉に関する職員研修を行っています。

今年度は、10月20日に実施し、中学校の保健体育の授業を小、中の教職員で参観し、参観後に指導の仕方について話し合いました。話し合いの中では、発達段階（学年）による指導の仕方の違いや身につけさせたい能力の共通点について意見が出されました。



小中合同あいさつ運動

11月21日に小中合同あいさつ運動を行いました。あいさつ運動は、数年前から学期に1回程度の割合で、正門前と学校付近の交差点で、小学校の運営委員会の児童、中学校生徒会執行部の生徒が一緒になって、登校してくる児童、生徒に挨拶をしています。今年度は、加地市長さんもあいさつ運動に参加していただいています。

